

第5節 常盤構内(山口大学工学部構内遺跡)の調査

1. 工学部職員宿舎揚水施設改修工事に伴う立会調査

調査地区 常盤構内

調査面積 約65㎡

調査期間 平成17年10月21、24、26日

調査担当 田畑直彦

調査結果 常盤構内の西南部に位置する工学部職員宿舎で揚水施設改修工事が計画されたことを受けて、立会調査を実施することになった。

工事は宿舎周囲に給水管理設のため掘削を行うものであった。調査の結果、A地点では現地地表下30cmまでが造成土で、30～70cmで橙色(2.5YR6/8)粘土の地山を検出した。また、B～C地点間では、現地地表下10～12cmまでが造成土で、10～68cmで明赤褐色(2.5YR5/8)粘土の地山を検出した。D地点では現地地表下78cmまでが造成土で、78～90cmで明赤褐色(2.5YR5/8)粘土の地山を検出した。その他の場所については、掘削深度が50～60cmにとどまったこともあり、大半が造成土の範囲内であった。

以上の調査の結果、宿舎敷地は大規模な削平を受けたものと考えられ、遺構・遺物は皆無であった。

なお、工学部職員宿舎と道を隔てた北東側では、平成4年度に工学部プレハブ・実験棟新営工事に伴う^{註1}試掘調査が実施されているが、表土直下で地山が検出されるなど、今回調査地と同様に過去に造成による削平を受けていることが判明している。従って、調査地付近一帯では過去に埋蔵文化財が存在したとしてもすでに消失したと考えられる。

[註]

1) 豆谷和之(1994)「第4章第1節 工学部プレハブ・実験棟新営に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XII』

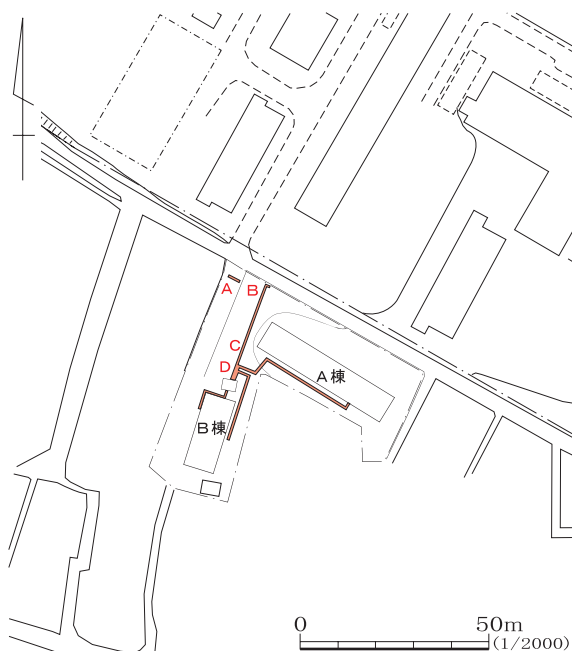


図39 調査区位置図



写真 54 A地点土層断面 (南西から)



写真 55 B地点土層断面 (北西から)

2. 工学部会議棟身障害者スロープ取設工事に伴う立会調査

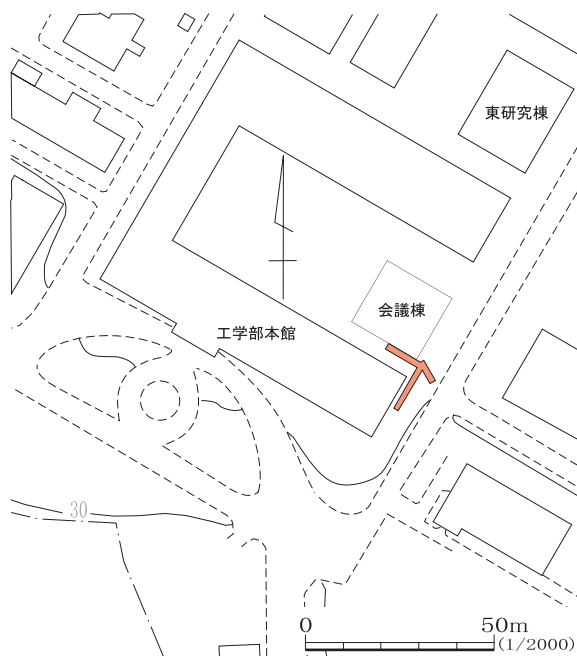


図 40 調査区位置図

調査地区 常盤構内本館北東隅空地
調査面積 約38㎡
調査期間 平成18年2月17日
調査担当 横山成己
調査結果 常盤構内本館東側の南北道路から、本館及び会議棟へスロープを取設する工事が計画された。

本館周辺では、平成15年度に本館改修工事に伴う立会調査^{註1}を実施している。本館東部周辺では現地表下約1.2mで地山(黄褐色粘質土)が確認されるものの、遺構等は全く検出されておらず、大学造成時に旧地形が大幅に削平されているものと推測される。

工事においては平面積38㎡の範囲で最深約0.75mの掘削が行われたが、いずれも現表土および造成土内に止まり、埋蔵文化財に何ら影響を及ぼすものではなかった。

[註]

- 1) 田畑直彦(2005)「第2章第5節 工学部本館改修工事に伴う立会調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成15年度—』, 山口

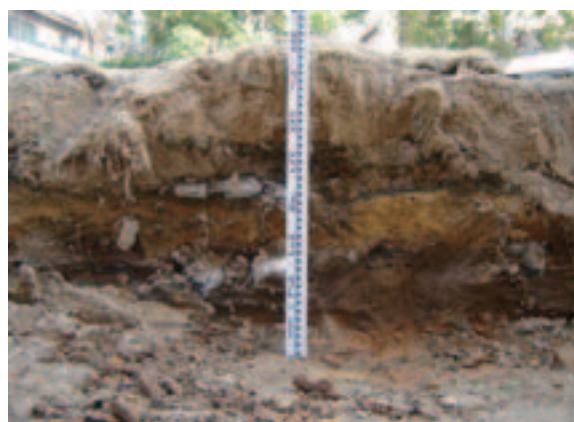


写真 56 調査区土層断面 (北東から)



写真 57 調査区近景 (北から)